

⑨日本国特許庁
公開特許公報

⑩特許出願公開
昭53—94041

⑪Int. Cl.² 識別記号 ⑫日本分類 庁内整理番号 ⑬公開 昭和53年(1978)8月17日
A 61 K 7/02 31 B 4 6865—46
A 61 K 7/043 31 E 2 6770—46 発明の数 1
審査請求 未請求

(全 4 頁)

⑭メイキャップ化粧料

—306

⑮特 願 昭52—7526

⑯発 明 者 清水徹

三郷市彦成3—11—2—802

⑰出 願 昭52(1977)1月26日

⑰出 願 人 株式会社小林コーセー

⑱発 明 者 徳田純一

東京都中央区日本橋3—6—2

東京都世田谷区船橋6—26—1

⑲代 理 人 弁理士 有賀三幸 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

メイキャップ化粧料

2. 特許請求の範囲

(1) 皮膚形成成分として非水系ポリマーデイス
バージョンを含有することを特徴とするメイ
キャップ化粧料。

(2) 非水ポリマーデイスバージョンが、(a)分散
重合体がスチレン；α-メチルスチレン；エ
チレン；プロピレン；またはアクリル酸もし
しくはメタクリル酸と炭素数4～18個の高級
アルコールとのエステル重合体またはこれ
らの共重合体で、媒体が低級アルコールであ
るか、または(b)分散重合体が脂肪酸ビニル；
またはアクリル酸もしくはメタクリル酸と炭

素数4以下の低級アルコールとのエステルの
重合体またはこれらの共重合体で、媒体が脂
肪族炭化水素、芳香族炭化水素またはこれら
の混合物である特許請求の範囲第1項記載の
メイキャップ化粧料。

3. 発明の詳細な説明

本発明は皮膚形成成分として非水系ポリマ
ーデイスバージョンを使用したメイキャップ
化粧料、特にアイライナー、マスカラ、アイ
ブロー、マニキュア等に関する。

従来、アイライナー、マスカラ、アイブロ
ウ等のメイキャップ化粧料は、その組成的分
類において、乳化タイプ、皮膚タイプ、油性
タイプ、油性皮膚タイプ が知られている。
すなわち、乳化タイプは液体油、ワックス類

と水とを界面活性剤で乳化し、ワックスの皮膜を利用するものであり、皮膜タイプはアクリル系、酢酸ビニル系等の水性エマルジョンを主成分とし、その高分子化合物の皮膜を利用するものであり、油性タイプは揮発性鎖状炭化水素と液体油、ワックス類とを主成分とし、ワックスの皮膜を利用するものであり、また油性皮膜タイプは乳化タイプと皮膜タイプの組合せ、あるいは油性タイプと皮膜タイプの組合せで、各タイプの長所すなわちワックスの皮膜のよさと高分子化合物の皮膜のよさを利用したものである。

しかし、これらのメイキャップ化粧料は次の如き欠点を有し、化粧料として必ずしも満足し得るものではない。すなわち、例えば、

そこで、本発明者は斯る欠点を改良すべく鋭意研究を行った結果、皮膜形成成分として非水系ポリマーディスページョンを使用すれば従来の水性エマルジョンを使用した化粧料に比較し、化粧機能、安定性、製法が著しく改善されることを見出し、本発明を完成した。

従つて、本発明は皮膜形成成分として非水系ポリマーディスページョンを含有するメイキャップ化粧料を提供せんとするものである。

本発明で使用される非水系ポリマーディスページョンとしては、例えば次の(a)または(b)のものが挙げられる。

(a) 分散重合体：ステレン、 α -メチルスチレン、エチレン、プロピレン、アクリル酸またはメタクリル酸と炭素数4〜

乳化タイプにおいては耐油性、耐水性が充分でなく、皮膜タイプでは耐水性、乾燥性はある程度良好であるが、多量の汗、水等に対しては化粧効果の保持が不充分であり、油性タイプにおいては耐油性が全く不充分であると共に乾燥性も満足できるものでなく、油性皮膜タイプにおいては皮膜形成主成分として水性エマルジョンを使用しているため、油性ベース中で安定配合することを必要とし、その結果O/W/O型のダブルエマルジョンまたはトリプルエマルジョン化する必要があり、そのため界面活性剤の使用を余儀なくされている。しかし、界面活性剤の使用は皮膚刺激の点で好ましくなく、また化粧効果の点でも耐油性、耐水性の低下を招く結果となる。

18個の高級アルコールとのエステル類の重合体またはこれらの共重合体。

媒体：エタノール、プロパノール、イソプロパノール等の低級アルコール。

(b) 分散重合体：酢酸ビニル、プロピオン酸ビニル等の脂肪族ビニル、アクリル酸またはメタクリル酸と炭素数4以下の低級アルコールとのエステルの重合体またはこれらの共重合体。

媒体：ミネラルスピリット、アイソパー（エッソ石油社製）、IPソルベント（出光石油社製）等の脂肪族炭化水素、芳香族炭化水素またはこれらの混合物。

本発明のメイキャップ化粧料は、通常油性タイプのベースに皮膜形成主成分として非

水系ポリマーデイスパーションを配合し、媒体として揮発性炭化水素（沸点110～250℃）を使用して常法に従って製造される。メキヤツプ化粧料に配合する非水系ポリマーデイスパーションの配合割合は個々の製品形態によつて広範囲に変化させることができる。

このように、本発明の化粧料は媒体も分散重合体も共に油性物質であるため完全な油性ベースが形成され、その皮膜は従来の水性エマルジョンを使用した化粧料に比較し、耐油性、耐水性、乾燥性等の機能において著しく優れている。また本発明化粧料は上記のような構成であるため、公知の化粧料中最も好ましいものとされている油性皮膜タイプ化粧料と比較した場合、安定な化粧料を得るのにダ

ブルエマルジョン、トリブルエマルジョン化

する必要がなく、極めて簡単な操作で製造できる。更にまた、媒体としてエチルアルコールを使用してネイルエナメルを製造するときには、トルエン、酢酸エチル、酢酸ブチル等の溶媒を使用する従来のネイルエナメルに比較し、毒性の少ないものを提供することができる。

次に実施例を挙げて説明する。尚実施例中の配合比は重量部で示した。

実施例1（マスカラ）

① アイソパー	40.0
② カルナバワックス	7.0
③ パラフィンワックス	8.0
④ ラノリンアルコール	5.0

⑤ 酸化鉄（黒色）	7.5
⑥ タルク	7.5
⑦ 非水系ポリマーデイスパーション	25.0

（分散重合体：アクリル酸メ
チルエステル重合体、媒体：
ミネラルスピリット）

⑧ 香料	適量
------	----

製法：①～⑥を加熱し、ローラー処理して均一となし、次いでこれに⑦、⑧を攪拌下加えて製品とする。

実施例2（アイライナー）

① アイソパー	88.0
② ベントナイト	2.0
③ 体質顔料	85.0
④ カーボンブラック	2.0

⑤ 非水系ポリマーデイスパーション	23.0
（分散重合体：アクリル酸エ チルエステル重合体、媒体： アイソパー）	

⑥ 香料	適量
------	----

製法：①～④を加熱し、ローラー処理して均一となし、次いでこれに⑤、⑥を攪拌下加えて製品とする。

実施例8（アイライナー）

① アイソパー	28.0
② ラノリンアルコール	6.0
③ ミツロウ	0.5
④ パラフィンワックス	0.5
⑤ 体質顔料	45.0
⑥ 着色顔料	5.0

(7) 非水系ポリマーディスパージョン 15.0

(分散重合体：酢酸ビニル重

合体、媒体：アイソパー)

(8) 香料

適量

製法：(1)～(6)を加熱し、ローラー処理して均一となし、次いでこれに(7)、(8)を撈拌下加えて製品とする。

実施例4(ネイルエナメル)

(1) アイソパー 10.0

(2) 非水系ポリマーディスパージョン 88.0

(分散重合体：酢酸ビニル

-アクリル酸共重合体、媒

体：エタノール)

(9) ヒマシ油 1.2

(4) 着色顔料 0.8

製法：a：(1)と(2)を均一に混合する

b：(3)と(4)をローラー処理して均一とする

aにbを加えて製品とする。

以 上

出願人 株式会社 小林 コーセー

代理人 弁理士 有 賀 三 幸

弁理士 高 野 登志雄